

健康医療スポーツ学部 理学療法学科

教育方法と教育の特色ある工夫

本学の各学科・コースは、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー、以下CP）に基づき、それぞれの特色を活かした教育方法による授業を行っています。さらに、資格取得科目の充実など、教育方法に工夫を重ねながら、教育内容の向上に取り組んでいます。また、大学全体として、全学部生が共通して履修する必修科目、「フレッシュセミナー」「アドバンスセミナー」においては、少人数教育を実践しています。セミナー担当教員は、各学部・学科・コースのCPに基づく学修指導の他、学生生活全般にわたる指導を行っています。これにより学生は、社会人として求められる常識や教養等の汎用的能力と、各自の専攻分野や関心領域に関わる幅広い知識をバランス良く身につけることができます。この「セミナー」は、キャリア教育の一環として、学生の様々な相談にも応じています。

【教育方法】

理学療法士はリハビリテーションという大きな目標のために理学療法を実践するセラピストであります。この点を踏まえ、理学療法を学ぶこととともに、自らを表現することを経験し、対象となる方への理解を促すよう働きかける能力が身につけられるよう配慮された授業を行っています。例えば初期段階の講義系の授業科目の内容がその後の実習系科目に反映されるよう、また、学業で培った基礎知識を活かした臨床実習へつながる専門知識を学修し、自らが学んだことを確認することとともに対象者へ伝える努力がなされるような仕組みを授業に取り入れています。更に、将来臨床現場で実践能力が発揮できるよう、臨床実習を教育の中心に据えています。そのため、事前の学内実習では実際の理学療法の現場に近い環境を用意しています。

【教育の特色ある工夫】

- ・1年次において、理学療法の中で最も専門性の高い科目である「運動学」を学ぶよう設定しています。
- ・「運動学」は理学療法専門基礎科目であり、解剖学、生理学、物理学などを中心とする多くの学問統合のうえに成り立っています。また、この学問は、理学療法を学修する基礎として重要であるとの認識から、これを補完するものとして2年次に「運動学実習」が、前期実習時間を通常実習時間の2倍で開講されています。
- ・また、2年次「物理療法学実習」において、実際の物理療法を用いてその手順・実施前後の状況を写真、バイタルサインや関節可動範囲を用いて報告書の作成を行っています。これは、学生が学年進行での臨床実習時の報告書、更に「卒業研究」に繋がりをもてる実習科目として位置付けられる授業であります。